

## 檜俣川 洗ノ沢 報告

【山 域】 奥利根

【日程と天気】 平成28年7月30日(土) 曇り時々晴れのち雨

【メンバー】 CL 柘植・SL 吉川・石井・澤田路・井上里・加藤・狩野・萱野宏・吉瀬(記録)

【行程】 千葉 21:00頃⇒上里 SA⇒道の駅みなかみ水紀行(仮眠)

道の駅 5:00⇒5:40 奈良俣ゲート(駐車) 6:00⇒6:30 入渓地点(身支度) 7:00 入渓⇒11:00 三ノ沢出合⇒12:00 枝尾根取付き⇒14:00 登山道⇒17:00 奈良俣ゲート着 温泉入浴後帰葉

当初は洗ノ沢から笠ヶ岳への1泊2日の計画でしたが、天候不順のため数日前からCLからは行き先を含め、日帰りもあるという連絡がありました。出発の前日、当初の予定していた洗ノ沢に決定し、上里SAで集合した際、最新の気象情報を確認し、土曜日午後3時過ぎから雨、日曜も曇り雨の予報があったため土曜日帰りに変更となり、荷物は少なくなりました。

道の駅みなかみ水紀行で3時間程度仮眠後、朝食をとり予定どおり出発。

奈良俣ゲートに駐車し、林道へ。CLとSLが入渓地点を探し、沢靴ハーネス等を付けて出発。沢は初めての私は、ハラハラドキドキ。皆さんに続きます。入渓して最初はすべったり転んだり。Sさんが、「砂のうえを歩いた後は滑りやすいから、歩きながら、水でおとすといいのよ。」と教えてくださいました。



出発時の雄姿



最初の釜つき3m滝



吉瀬さん初沢の初へつり



5m+4mの2段滝

小さなゴルジュを進む



6mの斜瀑

2本目、体のバランスがとりにくく、手をたよりにしてしまい、ますます体のバランスがとりにくいという悪循環。休憩の際、「沢靴はフェルトだからすべりにくいから大丈夫。」「ゆっくりでいいのよ。」とアドバイスされ、3本目はバランスをとって足で進めました。



明るいナメ滝に水が輝く



黄色味を帯びた岩はフリクションもよく効く



倒木のかかる滝を登る吉川 SL



加藤さん渾身のブリッジ

高度も上がり、滝も現れてきて、周りの緑と滝のコントラストがきれい。滝つぼの深い緑を前に、『宝石みたい。』『緑茶みたい。』と口々に感動が言葉になります。二ノ沢の辺りから、陽ができて、きらき

らしてとても綺麗でした。



光と緑と水のおりなす光景に見とれる



この滝の右手の岩を慎重に登る



可愛い2段の滝



6mくらいの斜瀑



次の5m滝の滝頭から



このあたりから幅広いナメ床の連続となる

お天気が心配だったので、大滝見学は諦めてエスケープルートの三ノ沢に入ります。三ノ沢はNETの記録ではエスケープになりそうと書かれてはいますが、記録を見たことがないとのこと。最初の30分は本流筋を、次の30分はその枝沢を登り、稜線に向かいます。途中、急で滑りやすい滝ではCLがお助けロープをだしていただきました。そして、いよいよヤブへ突入。当初から三ノ沢経由の場合は3時間程度のヤブがあることと、そのヤブの種類が何か分からないことはCLから聞いていました。最

初の40分は急な斜面をササや木の枝を頼りに登り、稜線近くからはアスナロや背の高さよりあるササの混在したヤブになりました。



エスケープの三ノ沢近くのナメ



三ノ沢出合で気合の記念写真

予報より早く雨も落ちてきました。時々前の方が着ている衣類の色のせいか、ササに隠れて見えにくくなり、先頭に行くSLが笛を吹いて、方向を教えてくださいました。終始静かだった二人のKさん。初めて一緒したKさんが「平泳ぎ～」と言ってササヤブの漕ぎ方を教えてくださいました。入会后何度も一緒しているもう一人のKさんが「ヤブコギハイ！」と言って楽しそう。なんだかこちらまで楽しくなってきました。

雨で少し濡れましたけれど、予定通りの3時間のヤブコギでした。晴天、暑くなくて本当に良かったです。

登山道に出た頃に雨も止みました。下山際、濡れた地面に滑ってしまい、足を少しひねっていました。SLとKさんが荷物の持ってくださいさり、本当はビュンビュン下山したであろう帰路は、里山ハイクのようにになりました。



登山道を GOAL 目指して下る



林道出合に到着、あとは車道歩き 20 分を残すのみ

今回の沢登りでは、前向きに楽しむ皆さんと充実した時間をすごすことができました。いつか、沢泊で焚火を囲んでの山行ができるようになりたいと思いました。

どうもありがとうございました。

吉瀬（記）